

4・仙台市文化財レスキューの実施について

長島 栄一 仙台市教育委員会 文化財課 整備活用係長

0. はじめに

仙台市では、東日本大震災において、収蔵施設の一つである仙台市向田文化財整理室の施設そのものへの損壊がなかったことから、当該施設を用いて、平成23年度末に文化庁補助事業「ミュージアム活性化事業」の一環として行われた被災資料（考古遺物）のレスキュー事業（国立文化財機構への委託事業）に協力した。具体的には、被災した石巻文化センターの収蔵遺物を洗浄、整理する作業場所の提供と、指導監督者及び作業員の派遣を行った。

指導監督者（市職員OB）の指導のもと、作業に習熟した作業員（6名）が、平成24年2月13日（月）から3月2日（金）のうち、12日間にわたって洗浄作業を行った。この期間に平箱100箱（沼津貝塚、須江瓦山、桃生城などの出土、採集遺物）の洗浄が終了した。作業期間中の2月25日（土）、26日（日）には、課内職員や希望者を対象として、職員の指導のもと、被災資料のレスキュー作業を体験するボランティアデーを設定し、幅広いレスキュー活動を試みたところ、のべ11名の参加者があった。これを経験した市民からは、レスキュー事業の継続、参加を望む声が出された。

1. 平成24年度の文化財レスキュー

平成23年度実施したボランティアデーの参加者からの要望により、継続して、石巻文化センター等の被災資料（考古遺物）の洗浄作業を行うことにした。作業には、平成22年に設立された仙台・文化財サポーター会研究部会の「文化財保存・継承研究会」の希望者がボランティアで参加し、参加者の集約は同研究会の代表者が、作業の監督、指導は市職員が行った。

期間は平成24年6月から9月まで、平日の月曜日に午前2時間、午後2時間の作業時間を設定し、実施した。参加者として登録した人員は8名程であるが、随時5、6人の参加があり、この間に経石関係の平箱10箱、土器関係の平箱60箱分の洗浄作業を行った。作業が終了した資

料については、5月29日（火）と11月21日（水）に石巻市・宮城県により搬出作業が行われた。

仙台・文化財サポーター会では、この作業状況をパネル化し、仙台市教育委員会の主催行事である文化財展（仙台市博物館にて開催）、仙台市向田文化財整理室の近傍にある高砂市民センターにおける市民センターまつりなどの催事で展示活動を展開した。

2. その後

津波被害で汚れた70箱程の考古遺物の洗浄作業が、市民のボランティアにより自発的、かつ継続的に行われてい



ボランティアによる洗浄作業の様子



ボランティアによる洗浄作業の様子

ることは高く評価されるものとする。作業に従事した市民は土器や石器、瓦、経石などを、直接手に触れることは初めての人も多く、一つ一つに興味を持って職員に内容を問いかける姿が印象的で、生涯学習の一助になったと言える。また洗浄も丁寧であり、作業上の問題はなかった。

なお、洗浄作業終了にあたって、作業参加者より考古遺物についてさらに学びたいとの要望があったことから、平成24年度の発掘調査で地震被害に伴って与兵衛沼窯跡から出土した瓦類と、被災ミュージアム再興事業（宮城県委託事業）の対象となっている郡山遺跡の収蔵・展示遺物を対象に、継続した基礎整理作業への従事の設定した。与兵衛沼窯跡の瓦類については洗浄作業、郡山遺跡の収蔵・展示遺物については収蔵庫内の整理と接合作業に参加していただいた。こうした継続的な作業を通じて、作業参加者の遺物基礎整理作業の技術は向上しており、平成25年3月16日（土）から24日（日）まで開催される被災ミュージアム再興事業に伴う展示会では、瓦の接合作業の体験コーナーに、担当者として参加していただいた。



ボランティアによる展示活動の様子
（高砂市民センターまつり）